



ひまわりノ畠

教育目標 思索・和敬・剛健
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう



<http://www.kyose.ed.jp/kyoseidejotyuulekou/index.htm>



雪の結晶は、支え合う正四面体

1/18(日)より、二泊三日の1年生菅平スキー教室がありました。1学年だよりに掲載されていた生徒作文を読ませてもらうと、「友愛協心～永遠にとけない最高の思い出～」というスローガンの下、大自然の中でスポーツを楽しみ、自然の雄大さを味わい、友達との時間を満喫してくれた様子が伝わります。天候は、曇ったり晴れたりでしたが、幸いにも気温は高め（一桁ですが）で、まずは雪質でした。期待していた粉雪にはなりませんでしたが、最終日の朝、すこしチラついてくれ、上着に舞い降りた雪を見ると、きれいな雪の結晶になっていました。



雪は空気中の水蒸気（気体）が、雲の中で凝結して氷（固体）になったものですが、気温や湿度などの条件が整うと綺麗な結晶になるそうですが、東京は気温が高く、冬の空気は乾燥しているので難しいようです。結晶の形は、大きく8分類あるそうですが、一番きれいな樹枝状結晶（某牛乳メーカーのマーク風）は、気温が-15°C付近で、湿度が高い時にできやすく、菅平高原はこの条件によく当てはまるそうです。

■基本は、水分子で作る強固な正四面体

雪の結晶は、六角形を基本とする幾何学的な形をしています。水 (H_2O) 分子が集まって結晶を作るとき、1つの分子の周りを、4つの分子が取り囲んだ正四面体のブロックを作り、それが積み木のように連結して、結晶を作っています。

正四面体は、4つの正三角形からできている三角錐で、すべての辺の長さが同じで、角度もすべてが60度。そのため60度×6の一一周360°となるため、雪の結晶は六角形が基本となって組み上がっていきます。三角形はもっとも変形しにくい丈夫な形で、正四面体はどの面を下にして置いても同じ形となり、どの頂点に力が加わっても、他の3つの頂点に均等に力が伝わり、しっかり支え合う丈夫な形です。正三角形を基本に柱を組み合わせるトラス構造は、鉄橋や建築物でよく見かける作りで、海岸線にあるテトラポット（消波ブロック）なども同じ形です。

■互いに支え合う仲間の集団

雪の結晶ではさらに正四面体の重心の位置にもう一つ分子があり、内側から頂点の4つの分子を支えます。そしてこのようなグループを次々に連結していく、互いに支え合う力が連鎖して、全体として、とても強固で美しい結晶に育ちます。同じ構造を持つ物質がダイヤモンドです。1つの炭素を中心にして、5つの炭素原子で作った正四面体が連続して立体的に組み上がり、世の中で最も堅い鉱物になっています。人も互いに支え合う小さなグループが、次々に繋がると、互いに支え守られ、雪の結晶のような関係になれると思います。

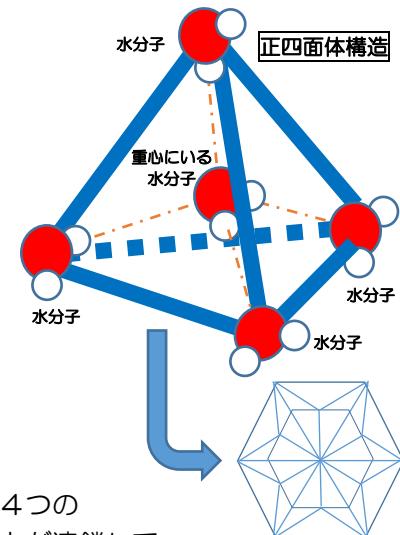
■規則に基づいて、整うことで、強く、美しくなる。

そして、美しい雪の結晶になるには、規則性が重要なポイントになります。私たちにとって、社会のルールやマナーといった約束事にあたります。小さな良い集団が生まれ、ルールやマナーの下で、次々に手を取り合い、連携していくと、安心安全な環境が作られ、誰もが安心してすごせるSDGsな社会づくりに繋がると思います。

スキー教室を振り返ってみてどうでしたか？生活班・実習班はしっかりと支えましたか？ルールやマナーに基づく活動ができましたか？安心安全な環境を作り、楽しい二泊三日を送りましたか？ そうであったと思います。

■規則にそながらも、個性豊かに、雪の結晶は作られる。

規則を重視すると画一的になるのでは？と案ずることもありますが、雪の結晶がすごいのは、規則的でありながら100種類以上あり、個々を見比べると、同じものがないほど千差万別です。ルールや規則にしたがいながらも、個性豊かで、美しい雪の結晶を見ると、「規則=個性の否定」というのは、短絡的な考えではないかと反省させられます。生徒たちの個性が、学校生活の中で磨かれ、雪の結晶のように一つ一つ異なる美しさになることを願います。



日本雪氷学会 HP より

スマホもゲーム機もないけど、楽しかったね！ 1年生スキー移動教室 1/18~20

我慢大会ではありませんが、スキー移動教室でのさまざまなルールがありました。通常の学校生活がベースとなっていますので、授業に関わらないものは不要な物となり、旅行で最低必要なものなど、持ってきて良い物をルールで決め、限りある時間の中で80名ほどが食事や入浴などをするため時間制限が必要となり、どうしても個より全体が優先される生活となりました。生徒の皆さんには、仕事や役割という責任を分担してもらいました。

学校に戻り、行動予定表（スケジュール表）を見返してみると、“ON TIME” “5分前OK” “前倒し”などの書き込みばかりで、生徒の皆さんのがっかりとした三日間を過ごしてくれたことがわかります。

自由時間という設定はありませんが、入浴やお土産購入の順番待ちの時間や食事までの隙間時間などでは、ウノやトランプ、カードゲームなどをワイワイと楽しんでいました。スマホでSNSを見るなど、個人で楽しむ時間はありませんでしたが、仲間と過ごす時間はたっぷりありました。実行委員が企画してくれたクリエーションは、生活班対抗ゲーム大会でした。プレステなどが無くとも、手作りホワイトボードに、クリーナ替わりのチリ紙とペンだけ、賞品や賞状がなくとも、大盛り上がりで、1時間半があつという間に感じ、もちろんこれもON TIMEで終了。

ドキドキしながら初めて履くスキーや、初めてリフトに乗り、降りる際にこけた時は、どうなることかと思った生徒もいると思いますが、最終日には笑顔で滑りを楽しむ生徒ばかりとなり、スキーが初めてな生徒も経験者も、たった三日間ですが、出来るようになる。上達する喜びを感じてくれたようです。

ものなくとも、楽しめる方法を知り、何かに挑戦して、出来る喜びも知ってくれた1年生は、人生を楽しめる能力をレベルアップしてくれたと思います。楽しく充実した三日間でしたが、これは何事にも前向きに歩む皆さんのおかげです。ありがとうございました。



甘いドレッシングは、ふるさと清瀬の味！

～新メニュー登場：清瀬産蜂蜜使用の「きよはちサラダ」登場！～



1月最後の週は、文部科学省が定める「学校給食週間」でした。本校でも、昔の給食をイメージした料理や、地産地消をテーマにした献立が登場しました。月曜日は「すいとん」、火曜日は「五色ご飯・栄養味噌汁」、水曜日は「ソフト麺」、金曜日は「鯨のケチャップ和え」、そして木曜日は地産地消をテーマにして、清瀬の人参で作られたニンジンパウダーを使った「ニンニンパン®」に、清瀬市産の野菜4種（大根、人参、白菜、ほうれん草）を使った「きよせシチュー」、そして市役所の屋上で養蜂している蜂蜜“きよはち”を使った「きよはちサラダ」が登場しました。高価でなかなか給食の食材として手が出ない「きよはち」ですが、今回は食育の取り組みとして、清瀬市が給食費とは別に負担してくださり、100g入りの瓶が15本をドレッシングとデザートに使用しました。ドレッシングは酸味に蜂蜜特有の甘さが加わり、カリカリに揚げた細切りボテの食感とも合わり、給食では初めての味わいとなりました。ニンニンパン®の上にのせて食べると、これも美味しかったです。甘さに負けないようにと、デザートの「りんごかん」にも少し加えたのは、栄養士さんのアイデアです。

地産地消のこのような食育に取り組むことができるるのは、食材豊かな清瀬ならではです。

明日(2/3)は節分そして明後日(2/4)は立春。春はここまで来ています。

3学期は日々が過ぎざるを本当に早く感じます。明日の2/3は節分で、明後日の2/4は立春となり、暦の上では春が始まります。節分とは「季節を分ける」という意味で、もともとは4つの季節がそれぞれ始まる日（立春、立夏、立秋、立冬）の前日のことでしたが、新年を迎えて最初の節分であり、生命の始まる季節とされる春の節分に、邪気を払う行事として始まったようです。節分行事が庶民に広がったのは、戦がなくなり、平和になった江戸時代のようで、「豆まき」が一般的ですが、地方によっては様々な風習があるようで、「恵方巻」を食べるご家庭もあると思いますが、これはもともと関西の風習だったものをコンビニ業界が全国に広めたのですが、その昔、豆まきはどのように広まったのでしょうか？ 「柊鯛（ヒイラギイワシ）」は関東の風習ですが、今は、飾るご家庭は少なくなったようです。時代とともに風習にも、流行り廃りがあるようです。2/3の給食は季節行事メニューで、節分に合わせて、大豆と鯛の献立です。

